

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
設置者	コクワツカ ^イ ガ ^ク ホクシ ^ン フクシマ ^ダ イ ^ク 国立大学法人 福島大学									
大学の名称	フクシマ ^ダ イ ^ク ク ^ダ イ ^ク イ ^ン 福島大学大学院(Graduate School of Fukushima University)									
大学の位置	福島県福島市金谷川1番地									
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	研究科は、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システムについて基礎研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題も抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	食農科学研究科 [Graduate School of Food and Agricultural Sciences]	年	人	年次人	人	修士(農学) 【 Master of Agricultural Sciences 】	令和5年4月 第1年次	福島県福島市金谷川1番地		
	食農科学専攻 [Department of Food and Agricultural Sciences]	2	20	—	40					
計	2	20	—	40						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>地域デザイン科学研究科（令和4年4月事前相談（予定））</p> <p>人間文化専攻（20）</p> <p>地域政策科学専攻（8）</p> <p>経済経営専攻（14）</p> <p>教職実践研究科（令和4年4月事前相談（予定））</p> <p>教職高度化専攻（12）</p> <p>人間発達文化研究科（廃止（予定））</p> <p>教職実践専攻（△16）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>地域文化創造専攻（△17）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>学校臨床心理専攻（△7）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>地域政策科学研究科（廃止（予定））</p> <p>地域政策科学専攻（△20）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>経済学研究科（廃止（予定））</p> <p>経済学専攻（△10）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>経営学専攻（△12）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>共生システム理工学研究科〔定員減（予定）〕</p> <p>共生システム理工学専攻（△13）（令和5年4月）</p> <p>環境放射能学専攻（△2）（令和5年4月）</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	食農科学研究科 食農科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
教員	新設	学部等の名称		専任教員等					兼教員	任等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手			
		食農科学研究科	15	22	0	0	37	0	1	
		食農科学専攻（修士課程）	(15)	(22)	(0)	(0)	(37)	(0)	(1)	
		地域デザイン科学研究科	35	14	1	0	50	0	19	
		人間文化専攻（修士課程）	(36)	(14)	(1)	(0)	(51)	(0)	(18)	
		地域政策科学専攻（修士課程）	20	15	0	0	35	0	2	
(20)	(15)	(0)	(0)	(35)	(0)	(2)				
経済経営専攻（修士課程）	24	16	0	0	40	0	3			
(24)	(16)	(0)	(0)	(40)	(0)	(3)				
教職実践研究科	15	5	0	0	20	0	40			
教職高度化専攻（専門職学位課程）	(15)	(5)	(0)	(0)	(20)	(0)	(42)			
計	109	72	1	0	182	0	—			
(110)	(72)	(1)	(0)	(183)	(0)	(—)				

の概要	既設分	共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻（博士前期課程）	30 (32)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	47 (49)	0 (0)	5 (5)
		環境放射能学専攻（博士前期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	9 (9)
		共生システム理工学専攻（博士後期課程）	29 (31)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	43 (45)	0 (0)	1 (1)
		環境放射能学専攻（博士後期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)
		計	34 (36)	23 (23)	2 (2)	0 (0)	59 (61)	0 (0)	— (—)
合計		143 (146)	95 (95)	3 (3)	0 (0)	241 (244)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		1 1 4 (1 1 4)		4 2 (4 2)		1 5 6 (1 5 6)		
	技 術 職 員		8 (8)		1 (1)		9 (9)		
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		1 (1)		5 (5)		
	そ の 他 の 職 員		4 (4)		1 7 (1 7)		2 1 (2 1)		
計		1 3 0 (1 3 0)		6 1 (6 1)		1 9 1 (1 9 1)			
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	170,811㎡	0㎡		0㎡		170,811㎡		
	運 動 場 用 地	81,940㎡	0㎡		0㎡		81,940㎡		
	小 計	252,751㎡	0㎡		0㎡		252,751㎡		
	そ の 他	199,330㎡	0㎡		0㎡		199,330㎡		
合 計		452,081㎡	0㎡		0㎡		452,081㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		76,079㎡ (76,079㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		76,079㎡ (76,079㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	34室	62室	95室	9室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 食農科学研究科食農科学専攻			室 数 37 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本		
	食農科学研究科	960,000[236,700] (958,833[236,638])	13,522[2,731] (13,522[2,731])	21,064[21,064] (21,064[21,064])	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)		
	計	960,000[236,700] (958,833[236,638])	13,522[2,731] (13,522[2,731])	21,064[21,064] (21,064[21,064])	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		10,638㎡	664席		1,113,194冊				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,778㎡	陸上競技場、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、バレーボールコート、弓道場、ハンドボール場、水泳プール、馬術場						
経費の見積り及び維持の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—							

既設大学等の状況	大学の名称		国立大学法人福島大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	人文社会学群			年次人						
	人間発達文化学類	4	260	10	1,060	学士（発達文化）	1.03	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
	行政政策学類			3年次						
	昼間	4	185	10	760	学士（法学）（社会学）	1.03	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
	夜間主	4	20	—	80	学士（法学）（社会学）	1.08	平成31	福島県福島市金谷川1番地	
	経済経営学類	4	220	10	900	学士（経済学）	1.02	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
	理工学群									
	共生システム理工学類	4	160	—	640	学士（理工学）	1.05 1.05	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
	農学群									
	食農学類	4	100	—	400	学士（農学）	1.04 1.04	平成31	福島県福島市金谷川1番地	
	人間発達文化研究科									
	（専門職学位課程）									
	教職実践専攻	2	16	—	32	教職修士（専門職）	0.75	平成29	福島県福島市金谷川1番地	
	（修士課程）									
	地域文化創造専攻	2	17	—	34	修士（地域文化）	1.02	平成21	福島県福島市金谷川1番地	
	学校臨床心理専攻	2	7	—	14	修士（教育学）	1.07	平成13	福島県福島市金谷川1番地	
	地域政策科学研究科									
	（修士課程）									
	地域政策科学専攻	2	20	—	40	修士（地域政策）	0.32	平成5	福島県福島市金谷川1番地	
	経済学研究科									
（修士課程）										
経済学専攻	2	10	—	20	修士（経済学）	0.90	昭和51	福島県福島市金谷川1番地		
経営学専攻	2	12	—	24	修士（経済学）	0.54	昭和61	福島県福島市金谷川1番地		
共生システム理工学研究科										
（博士前期課程）										
共生システム理工学専攻	2	53	—	106	修士（理工学）	0.78	平成20	福島県福島市金谷川1番地		
環境放射能学専攻	2	7	—	14	修士（理工学）	0.28	平成31	福島県福島市金谷川1番地		
（博士後期課程）										
共生システム理工学専攻	3	4	—	14	博士（理工学）	0.75	平成22	福島県福島市金谷川1番地		
環境放射能学専攻	3	2	—	4	博士（理工学）	0.50	令和3	福島県福島市金谷川1番地		
	<p>名称：食農学類附属発酵醸造研究所 目的：研究所は、発酵醸造に関する総合的な基盤研究と地域の課題を解決する橋渡し研究を推進し、これを国際的な課題や地球規模の課題の解決にも貢献する学際的な先端研究として発展させることを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：令和3年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 食農学類管理棟（2,530㎡）の一部</p>									
	<p>名称：食農学類附属農場 目的：農学群の教育・研究に資することを目的とする。 所在地：福島県福島市松川町浅川字體2～6番、福島県福島市松川町浅川字體27番1、福島県福島市松川町浅川字體41番1、福島県福島市松川町浅川字前田29番、福島県福島市松川町浅川字前田22番1、福島県福島市松川町浅川字武須沢16番、福島県福島市松川町浅川字西森2番1 設置年月：平成31年4月 規模等：土地 19,187㎡、建物 —㎡</p>									
	<p>名称：総合情報処理センター 目的：福島大学における情報処理システム及び情報ネットワークシステムを整備運用し、情報処理を効率的に行うとともに、教育及び学術研究の進展に資することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 2,204㎡</p>									
	<p>名称：保健管理センター 目的：福島大学の学生及び職員等の健康の保持増進を目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：昭和56年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 441㎡</p>									

附属施設の概要

<p>名称：国際交流センター 目的：海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進，留学生教育の企画立案及び教育研究面での国際交流を図ることを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部，建物 S講義棟 (4,360㎡) の一部</p>	
<p>名称：アドミッションセンター 目的：アドミッションポリシーに応じた入学選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し，円滑な入学選抜の実施を図ることを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部，建物 事務局棟 (2,440㎡) の一部</p>	
<p>名称：地域創造支援センター 目的：地域の経済・社会等及び生涯学習に関する調査研究を行い，産官民学連携事業の実施及び生涯学習機会を提供することにより，福島大学の教育研究の活性化・高度化を図るとともに，地域社会の多様なニーズに対し，研究成果及び知的財産等の知的資源を還元して地域社会の産業及び文化の進展に寄与することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成13年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部，建物 経済経営学類棟 (6,710㎡) の一部</p>	
<p>名称：うつくしまふくしま未来支援センター 目的：東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う被害に関し，生起している事実を科学的に調査・研究することにより，福島大学における災害復興に関する研究及び教育の活性化・高度化を図るとともに，本学の研究成果及び知的財産等の知的資源を還元して被災地の復旧・復興を支援することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部，建物 経済経営学類棟 (6,710㎡) の一部</p>	
<p>名称：環境放射能研究所 目的：国内外の研究機関と連携し，温帯多雨地域における放射性物質による環境への長期的な影響の調査・研究を行い，環境放射能動態について解明することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成25年7月 規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部，建物 5,937 ㎡</p>	
<p>名称：福島大学附属幼稚園 目的：幼児を保育し，健やかな成長のために適当な環境を与えて，心身の発達を助長するとともに，教育の理論及び実践に関する研究を行い，教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：福島県福島市浜田町12-39 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地 5,033㎡，建物 615㎡</p>	
<p>名称：福島大学附属小学校 目的：義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行うとともに，小学校教育の理論及び実践に関する研究を行い，教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：福島県福島市新浜町4-6 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 18,804㎡，建物 9,018㎡</p>	
<p>名称：福島大学附属中学校 目的：義務教育として行われる普通教育を行うとともに，中学校教育の理論及び実践に関する研究を行い，教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：福島県福島市浜田町12-26 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 34,808㎡，建物 6,177㎡</p>	
<p>名称：福島大学附属特別支援学校 目的：知的発達に遅れのある児童生徒に対して教育を行うとともに，教育の理論及び実践に関する研究を行い，教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：福島県福島市八木田字並柳71 設置年月：昭和52年4月 規模等：土地 12,031㎡，建物 4,307㎡</p>	

教育課程等の概要															
(食農科学研究科食農科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤大学院目	イノベーション・リテラシー	1①②	2			○									兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1
基盤専攻科目	データサイエンスと研究倫理	1①②	2			○			1	8					オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	8	0	0	0	0	—
共通専門科目	食農科学ワークショップⅠ	1②	1				○		15	22					共同・集中
	食農科学ワークショップⅡ	2②	1				○		15	22					共同・集中
	先端食品科学	1①		1		○			5	5					オムニバス・共同（一部）
	先端農業生産科学	1②		1		○			4	6					オムニバス・共同（一部）
	先端生産環境科学	1①		1		○			3	7					オムニバス・共同（一部）
	先端農業経営科学	1②		1		○			3	4					オムニバス
	復興知と農業・食料のイノベーション	1③④		2		○			5	2					オムニバス・共同（一部）
	アグロエコロジー	1③④		2		○			5	4					オムニバス・共同（一部）
	食農地域実践研究	1①～④		1			○		15	22					共同・集中
	小計（9科目）	—	2	9	0	—			15	22	0	0	0	0	—
食品科学コース	食品素材機能学特論	1①②		2		○			2	2					オムニバス
	食品分析学特論	1①②		2		○			1	2					オムニバス
	微生物機能開発学	1①②		2		○			2	1					オムニバス・共同（一部）
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			5	5	0	0	0	0	—
農業生産科学コース科目	作物学	1①		1		○			1						
	遺伝育種科学	1①		1		○				1					
	育土栽培学	1③		1		○				1					
	野菜・花卉園芸学特論	1④		1		○				1					
	果樹園芸学特論	1①		1		○				1					
	応用昆虫学特論	1②		1		○			1						
	植物病理学特論	1③		1		○				1					
	土壌環境科学	1②		1		○			1						
	植物栄養学特論	1②		1		○				1					集中
	畜産学	1②		1		○			1						
小計（10科目）	—	0	10	0	—			4	6	0	0	0	0	—	
生産環境科学	先端森林管理学	1①②		2		○			1	3					オムニバス・メディア
	先端農地管理学	1①②		2		○			1	2					オムニバス
	農林環境生態学	1③④		2		○			2	2					オムニバス
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			3	7	0	0	0	0	—
農業経営科学	地域農業マネジメント論	1①②		2		○			2						オムニバス・共同（一部）
	フードビジネス分析論	1①②		2		○			1	2					オムニバス・共同（一部）
	農業経済・政策分析論	1③④		2		○				2					オムニバス・共同（一部）
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			3	4	0	0	0	0	—

専 門 科 目	特別演習	食農科学特別セミナー	1①～2②	6					○		15	22				
		小計(1科目)	—	6	0	0			—		15	22	0	0	0	—
	特別研究	食農科学特別研究	1①～2④	8					○		15	22				
		小計(1科目)	—	8	0	0			—		15	22	0	0	0	—
合計(32科目)			—	20	37	0		—		15	22	0	0	0	兼1	
学位又は称号		修士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
<p>【修了要件】 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専攻基盤科目2単位、専門科目(共通専門科目)2単位、専門科目(特別演習)6単位、専門科目(特別研究)8単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p><大学院基盤科目>2単位(必修2単位) <専攻基盤科目>2単位(必修2単位) <専門科目>26単位(必修16単位 選択10単位)</p> <p>(共通専門科目)4単位(必修2単位 選択2単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> 食農科学ワークショップⅠ・食農科学ワークショップⅡ 2科目2単位必修 「先端食品科学」、「先端農業生産科学」、「先端生産環境科学」、「先端農業経営科学」から所属するコースの科目を含め2科目2単位選択 <p>(コース科目)4単位(選択4単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> 所属するコースの科目を2科目以上4単位選択 <p>(共通専門科目・コース科目)上記の単位数に加え、共通専門科目・コース科目(全コース)から4単位選択</p> <p>(特別演習)6単位必修</p> <ul style="list-style-type: none"> 必修1科目6単位 <p>(特別研究)8単位必修</p> <ul style="list-style-type: none"> 必修1科目8単位 										2学期4ターム制			「配当年次」欄における 学期区分の記載方法 第1ターム：4月～5月① 第2ターム：6月～7月② 第3ターム：10月～12月③ 第4ターム：12月～1月④			
1学年の学期区分			1学期の授業期間		15週											
			1時限の授業時間		90分											

教育課程等の概要															
(農学群食農学類)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
【基盤教育科目】															
接続領域科目	スタートアップセミナー	1前	2					○			3	5			4クラス編成、共同
	小計(1科目)	—	2	0	0			—			3	5			
	キャリア形成論	1前	2					○			1				
	健康運動科学実習	1前	1							○					兼3
	小計(2科目)	—	3	0	0			—			1				兼3
外国語コミュニケーション	英語AⅠ	1前・後	2					○							兼3
	英語AⅡ	1前・後	2					○							兼4
	小計(2科目)	—	4	0	0			—							兼7
学術基礎科目・人文科学分野	倫理学	1後		2				○							兼2
	心理学Ⅰ	1前		2				○							兼1
	言語・文学Ⅰ	1後		2				○							兼1 隔年
	音楽	1後		2				○							兼1 隔年
	美術	1前		2				○							兼1
	教育と文化	1後		2				○							兼1 隔年
	ことばの仕組み	1後		2				○							兼1
	精神疾患とその治療	1前		2				○							兼1
	哲学Ⅰ	1後		2				○							兼1 隔年
	心理学Ⅱ	1後		2				○							兼1
	言語・文学Ⅱ	1後		2				○							兼2 隔年
	言語・文学Ⅲ	1前		2				○							兼3 隔年
	哲学Ⅱ	1後		2				○							兼1 隔年
	小計(13科目)	—	0	26	0			—							兼15
学術基礎科目・社会科学分野	経済学Ⅰ	1後		2				○							兼1 隔年
	地理学Ⅰ	1前		2				○							兼1 隔年
	社会論	1後		2				○							兼1 隔年
	ジェンダー学入門	1前		2				○							兼1 隔年
	政治学	1後		2				○							兼1 隔年
	歴史学Ⅱ	1後		2				○							兼3
	日本国憲法	1後		2				○							兼2
	市民と法	1前		2				○							兼1 隔年
	農業と人間	1後		2				○			1				兼1 隔年
	地域論Ⅰ	1前		2				○							兼1 隔年
	経済学Ⅱ	1前		2				○							兼1 隔年
若者・学校・社会	1前		2				○							兼2 隔年	
経営学	1前		2				○							兼1 隔年	
歴史学Ⅰ	1前		2				○							兼3 隔年	
小計(14科目)	—	0	28	0			—			1				兼19	
学術基礎科目・自然科学分野	環境の科学	1前		2				○							兼1
	ちからとうごき	1後		2				○							兼1
	食と健康	1前		2				○			1				
	物質の科学	1後		2				○							兼1
	生命の科学	1後		2				○							兼1 隔年
	食品の機能	1前		2				○			1				
	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	1後		2				○							兼1
	マセマティカル・サイエンス	1前		2				○							兼1 隔年
	教養の数学	1前		2				○							兼1 隔年
小計(9科目)	—	0	18	0			—			1	1			兼7	
キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2前	2					○			1	2			オムニバス、一部共同
	知的財産の基礎知識	2後		2				○							兼1
	データサイエンス入門	2後		2				○							兼3
	インターンシップ	3前・後		1						○	2	1			共同・集中
	小計(4科目)	—	2	5	0			—			2	2			兼4

教育課程等の概要														
(農学群食農学類)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科運健 目動康・	スポーツ実習	1後		1				○						兼3
	小計(1科目)	-	0	1	0			-						兼3
教養領域科目 外国語科目	英語B I	2前・後		2		○								兼3
	英語B II	2前・後		2		○								兼3
	応用英語X I	1前		1		○								兼1
	応用英語X III	1前		1		○								兼1
	応用英語X V	1前		1		○								兼1
	応用英語X VII	1前		1		○								兼1
	応用英語X IX	1前		1		○								兼1
	応用英語X II	1後		1		○								兼1
	応用英語X IV	1後		1		○								兼1
	応用英語X VI	1後		1		○								兼1
	応用英語X VIII	1後		1		○								兼1
	応用英語X X	1後		1		○								兼1
	ドイツ語基礎 I	1前		1		○								兼3
	ドイツ語基礎 II	1後		1		○								兼3
	ドイツ語応用 I	2前		1		○								兼2
	ドイツ語応用 II	2後		1		○								兼2
	フランス語基礎 I	1前		1		○								兼2
	フランス語基礎 II	1後		1		○								兼2
	フランス語応用 I	2前		1		○								兼2
	フランス語応用 II	2後		1		○								兼2
	中国語基礎 I	1前		1		○								兼4
	中国語基礎 II	1後		1		○								兼4
	中国語応用 I	2前		1		○								兼5
	中国語応用 II	2後		1		○								兼5
	ロシア語基礎 I	1前		1		○								兼1
	ロシア語基礎 II	1後		1		○								兼1
	ロシア語応用 I	2前		1		○								兼2
	ロシア語応用 II	2後		1		○								兼2
	韓国朝鮮語基礎 I	1前		1		○								兼2
	韓国朝鮮語基礎 II	1後		1		○								兼2
	韓国朝鮮語応用 I	2前		1		○								兼2
	韓国朝鮮語応用 II	2後		1		○								兼2
	ドイツ語基礎(特設) I	1前		1		○								兼2
	ドイツ語基礎(特設) II	1後		1		○								兼2
	フランス語基礎(特設) I	1前		1		○								兼1
	フランス語基礎(特設) II	1後		1		○								兼1
	中国語基礎(特設) I	1前		1		○								兼3
	中国語基礎(特設) II	1後		1		○								兼3
	ロシア語基礎(特設) I	1前		1		○								兼1
	ロシア語基礎(特設) II	1後		1		○								兼1
	韓国朝鮮語基礎(特設) I	1前		1		○								兼2
	韓国朝鮮語基礎(特設) II	1後		1		○								兼2
小計(42科目)	-		0	44	0			-						兼27
日本語科目	日本語 I A	1前		1		○								兼1
	日本語 I B	1前		1		○								兼1
	日本語 II A	1後		1		○								兼1
	日本語 II B	1後		1		○								兼1
	日本語 III A	2前		1		○								兼1
	日本語 III B	2前		1		○								兼1
	日本語 IV A	2後		1		○								兼1
	日本語 IV B	2後		1		○								兼1

教育課程等の概要															
(農学群食農学類)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養領域科目	小計(8科目)	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	兼1	
	日本事情 I	1前		2		○								兼1 隔年	
	日本事情 II	1後		2		○								兼1 隔年	
	日本事情 III	1前		2		○								兼1 隔年	
	日本事情 IV	1後		2		○								兼1 隔年	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	兼1	
科目情報	情報リテラシー	1前・後		2		○								兼5	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	—	—	—	—	—	兼5	
問題探究領域科目	ふくしま未来学入門 II	1後		2		○								兼2	
	災害復興支援学 II	1後		2		○								兼1	
	グローバル災害論	1前		2		○								兼1	
	成年年齢引き下げと政策的課題	1前		2		○								兼1	
	NPO論	1後		2		○								兼1 隔年	
	哲学カフェ	1前		2		○								兼1	
	再生可能エネルギー	1後		2		○								兼3	
	環境放射能学入門	1後		2		○								兼8	
	大学で学ぶ	1前		2		○								兼1	
	立ち直り支援と地域社会	1前		2		○								兼1 隔年	
	ボランティア論	1前		2		○								兼1	
	映画の世界・映画と世界	1後		2		○								兼1	
	ふくしま未来学入門 I	1前		2		○								兼2	
	評価論入門	1後		2		○								兼1	
	アジア共同体構想	1後		2		○								兼1	
	むらの大学	1後		2		○								兼2	
	データ分析入門	1後		2		○								兼1 隔年	
	生活探究演習	1前		2			○							兼1 隔年	
	震災農村復興論	1後		2		○			1	1				オムニバス	
	福島のブランド農業	1前		2		○				2				オムニバス、一部共同	
小計(20科目)	—	0	40	0	—	—	—	1	3				兼25		
セミナー	農場基礎実習 II	1後	2					4	6					共同	
	自主学修プログラム	1前	1											兼1	
	小計(2科目)	—	2	1	0	—	—	4	6					兼1	
【専門教育科目】															
学類共通専門基礎科目	数理リテラシー	基礎数学	1前	2			○							オムニバス	
		生物学	1前		2		○							オムニバス、一部共同	
		化学	1前		2		○			1					
		統計学	1後	2			○				1				
		物理学	1後	2			○				2				オムニバス
	小計(5科目)	—	4	6	0	—	—	1	7						
	農学リテラシー	農場基礎実習 I	1前	2					4	6					オムニバス
		食品科学概論	1前	2			○			5	5				オムニバス
		農業生産学概論	1前	2			○			4	6				オムニバス
		畜産学特別実習	1前		1									兼1	集中
生産環境科学概論		1後	2			○			3	6				オムニバス	
農業経営概論		1後	2			○			4	4				オムニバス	
基礎微生物学		1後		2		○			1						
栽培学汎論		1後		2		○			1	1				オムニバス	
食農情報処理演習		2前	2				○			6				共同	
世界の食料と農業	2前	2			○			10	5				オムニバス		
食品安全学	2前		2		○			1							
森林科学	2前		2		○			1							
土壌科学	2前		2		○			1							
農業工学	2前		2		○			2	3					オムニバス	

教育課程等の概要															
(農学群食農学類)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
農学シテラ	畜産学概論	2前		2		○			1						
	農業経営学	2前		2		○			1						
	森林特別実習	2前		1				○	1					集中	
	小計(17科目)	—	14	18	0	—	—	—	16	21				兼1	
専学演習通	食農実践演習Ⅰ	2後	2				○		16	21				7クラス編成、共同	
	食農実践演習Ⅱ	3前	4				○		16	21				7クラス編成、共同	
	食農科学英語演習	3前	2				○		2	1				3クラス編成	
	食農実践演習Ⅲ	3後	4				○		16	21				7クラス編成、共同	
	小計(4科目)	—	12	0	0	—	—	—	16	21					
コース専門科目	食品科学コース	食品機能学Ⅰ	2後	2			○		1						
		食品加工学Ⅰ	2後	2			○			1					
		発酵・醸造学Ⅰ	2後	2			○			1					
		食品素材科学	2後	2			○				1				
		生物化学	2後	2			○			1					
		有機化学概論	2後	2			○				1				
		分析化学概論	2後	2			○				1				
		食品機能学Ⅱ	3前	2			○			1					
		食品加工学Ⅱ	3前	2			○			1					
		発酵・醸造学Ⅱ	3前	2			○			1					
		食品衛生管理学	3前	2			○			1					
		食品保蔵学	3前	2			○				1				
		食品分析学	3前	2			○				1				
		栄養機能科学	3前	2			○							兼1	
		食品科学実験Ⅰ	3前	2					○	5	5				オムニバス、共同
食品科学実験Ⅱ	3後	2					○	5	5				オムニバス、共同		
小計(16科目)	—	4	28	0	—	—	—	5	5				兼1		
コース専門科目	農業生産学コース	作物育種学	2後	2			○			1					
		稲作学	2後	2			○				1				
		蔬菜・花き園芸学	2後	2			○				1				
		果樹園芸学	2後	2			○				1				
		植物病理学	3前	2			○				1				
		飼料資源学	3前	2			○			1					
		応用昆虫学	3前	2			○			1					
		植物栄養学	3前	2			○				1				
		環境保全型農業論	3前	2			○				1				
		農業生産学実験・実習Ⅰ	3前	2					○	3	6				オムニバス
		農地再生論	3後	2				○		1					
		病害虫管理学	3後	2				○		1	1				オムニバス、一部共同
		農業生産学実験・実習Ⅱ	3後	2					○	4	4				オムニバス
小計(13科目)	—	4	22	0	—	—	—	4	6						
コース専門科目	生産環境学コース	測量学	2後	2			○			2					
		測量・GIS実習	2後	2					○		4				
		水資源利用学	2後	2			○				1				
		里山管理論	2後	2			○				1				
		樹木学	2後	2			○							兼1	
		農業情報論	2後	1			○				1				
		農業機械学	2後	1			○				1				
		森林保護学	3前	2			○				1				
		農村計画学	3前	2			○			1					
		スマート農業論	3前	2			○				1				
		森林育成学	3前	2			○							兼1	
		森林利用学	3前	2			○				1				
		土壌物理学	3前	2			○			1	1				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(農学群食農学類)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 専門科目	生産環境学 コース	生産環境学実験・実習Ⅰ	3前	2					○	3	1				オムニバス
		農業リモートセンシング	3前		2			○			1				
		土壌生態学	3後		2			○		1					
		土質力学	3後		2			○		1					
		野生動物管理学	3後		1			○			1				
		生産環境学実験・実習Ⅱ	3後	2						2	3				オムニバス
		森林生態学	4前		2			○							兼1
小計(20科目)		—	8	29	0			—	3	6				兼3	
コース 専門科目	農業経営学 コース	農業経済学	2後		2			○			1				
		フードシステム論	2後		2			○			1				
		農産物流通論	2後		2			○			1				
		農業政策学	2後		2			○		1					
		社会計画論	3前		2			○							兼1
		農林資源経済論	3前		2			○			1				
		食品マーケティング論	3前		2			○		1					
		協同組合学	3前		2			○		1					
		環境経済学	3前		2			○							兼1
		農業簿記論	3前		2			○							兼8
		農業経営学演習Ⅰ	3前	4					○	3	4				オムニバス オムニバス、共同
		アグリビジネス論	3後		2			○		1	1				オムニバス
		農業経営学演習Ⅱ	3後	4					○	3	4				オムニバス、共同
小計(13科目)		—	8	22	0			—	4	4				兼10	
卒業 研究 科目	卒業研究 科目	卒業研究基礎演習	3後	1				○		16	21				
		卒業研究演習Ⅰ	4前	2				○		16	21				
		卒業研究演習Ⅱ	4後	2					○		16	21			
		卒業論文(4)	4後	4					○		16	21			
		小計(4科目)	—	9	0	0			—	16	21				
合計(215科目)		—	76	306	0			—	16	21				兼133	

教 育 課 程 等 の 概 要			
(農学群食農学類)			
学位又は称号	学士(農学)	学位又は学科の分野	農学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件)		1学年の学期区分	2学期
基盤教育科目34単位、専門教育科目88単位、自由選択科目2単位、合計124単位		1学期の授業期間	15週
<基盤教育科目>		1時限の授業時間	90分
(接続領域) スタートアップセミナー2単位、キャリア形成論2単位、健康運動科学実習1単位、外国語コミュニケーション科目・英語4単位の合計9単位必修			
(教養領域) 学術基礎科目 人文科学分野から2単位選択、社会科学分野から2単位選択、自然科学分野から2単位、合計6単位選択			
キャリア設計科目 キャリアモデル学修2単位必修			
外国語科目 4単位選択			
小計 12単位選択			
(問題探究領域)問題探究セミナーⅠ(農場基礎演習Ⅱ)2単位必修、問題探究科目から2単位選択、小計4単位			
(教養領域・問題探究領域) 上記の単位数に加え、教養領域科目、問題探究領域からさらに9単位選択			
【食品科学コース】			
<基盤教育科目> 34単位(必修13単位、選択21単位)			
<専門教育科目> 88単位(必修43単位、選択45単位)			
(学類共通専門基礎科目・数理リテラシー) 8単位			
・必修4単位			
・「生物学」「物理学」「化学」から2科目4単位選択			
(学類共通専門基礎科目・農学リテラシー) 28単位			
・必修14単位			
「基礎微生物学」「栽培学汎論」「食品安全学」「森林科学」「土壌科学」「農業工学」「畜産学概論」「農業経営学」「森林特別実習」1単位「畜産学特別実習」1単位から7科目以上14単位選択			
(学類共通演習科目) 12単位(必修)			
(コース専門科目) 28単位			
・必修4単位(「食品科学実験Ⅰ」「食品科学実験Ⅱ」)			
・「食品機能学Ⅰ」「食品加工学Ⅰ」「発酵・醸造学Ⅰ」「食品素材科学」「生物化学」「有機化学概論」「分析化学概論」「食品機能学Ⅱ」「食品加工学Ⅱ」「発酵・醸造学Ⅱ」「食品衛生管理学」「食品保蔵学」「食品分析学」「植物栄養学(農業生産学コース専門科目)」「栄養機能科学」「農地再生論(農業生産学コース専門科目)」「フードシステム論(農業経営学コース専門科目)」「食品マーケティング論(農業経営学コース専門科目)」から12科目24単位選択			
(学類共通専門基礎科目・専門科目) 上記の単位数に加え、学類共通専門基礎科目・専門科目(全コース)から3単位選択			
(卒業研究科目) 9単位(必修)			
<自由選択科目> 2単位			
上記の基盤教育科目、専門教育科目の単位数に加え、基盤教育科目、専門教育科目、他学類専門科目からさらに2単位選択			
【農業生産学コース】			
<基盤教育科目> 34単位(必修13単位、選択21単位)			
<専門教育科目> 88単位(必修43単位、選択45単位)			
(学類共通専門基礎科目・数理リテラシー) 8単位			
・必修4単位			
・「生物学」「物理学」「化学」から2科目4単位選択			
(学類共通専門基礎科目・農学リテラシー) 28単位			
・必修14単位			
「基礎微生物学」「栽培学汎論」「食品安全学」「森林科学」「土壌科学」「農業工学」「畜産学概論」「農業経営学」「森林特別実習」1単位「畜産学特別実習」1単位から7科目以上14単位選択			
(学類共通演習科目) 12単位(必修)			
(コース専門科目) 28単位			
・必修4単位(「農業生産学実験・実習Ⅰ」「農業生産学実験・実習Ⅱ」)			
・「作物育種学」「稲作学」「蔬菜・花き園芸学」「果樹園芸学」「農産物流通論(農業経営学コース専門科目)」「里山管理論(生産環境学コース専門科目)」「植物病理学」「飼料資源学」「応用昆虫学」「植物栄養学」「環境保全型農業論」「スマート農業論(生産環境学コース専門科目)」「農地再生論」「病害虫管理学」「食品加工学Ⅰ(食品科学コース専門科目)」「土壌生態学(生産環境学コース専門科目)」から12科目24単位選択			
(学類共通専門基礎科目・専門科目) 上記の単位数に加え、学類共通専門基礎科目・専門科目(全コース)から3単位選択			
(卒業研究科目) 9単位(必修)			
<自由選択科目> 2単位			
上記の基盤教育科目、専門教育科目の単位数に加え、基盤教育科目、専門教育科目、他学類専門科目からさらに2単位選択			

教 育 課 程 等 の 概 要

(農学群食農学類)

【生産環境学コース】

〈基盤教育科目〉 34単位(必修13単位、選択21単位)

〈専門教育科目〉 88単位(必修47単位、選択41単位)

(学類共通専門基礎科目・数理リテラシー) 8単位

- ・必修4単位
- ・「生物学」「物理学」「化学」から2科目4単位選択

(学類共通専門基礎科目・農学リテラシー) 28単位

- ・必修14単位

「基礎微生物学」「栽培学汎論」「食品安全学」「森林科学」「土壌科学」「農業工学」「畜産学概論」「農業経営学」「森林特別実習」1単位「畜産学特別実習」1単位から7科目以上14単位選択

(学類共通演習科目) 12単位(必修)

(コース専門科目) 28単位

- ・必修8単位(「測量学」「測量・GIS実習」「生産環境学実験・実習Ⅰ」「生産環境学実験・実習Ⅱ」)

・「水資源利用学」「里山管理論」「樹木学」「農業情報論」1単位「農業機械学」1単位「森林保護学」「農村計画学」「スマート農業論」「農業リモートセンシング」「森林利用学」「土壌物理学」「森林育成学」「土質力学」「土壌生態学」「野生動物管理学」1単位「森林生態学」から10科目以上20単位選択

(学類共通専門基礎科目・専門科目) 上記の単位数に加え、学類共通専門基礎科目・専門科目(全コース)から3単位選択

(卒業研究科目) 9単位(必修)

〈自由選択科目〉 2単位

上記の基盤教育科目、専門教育科目の単位数に加え、基盤教育科目、専門教育科目、他学類専門科目からさらに2単位選択

【農業経営学コース】

〈基盤教育科目〉 34単位(必修13単位、選択21単位)

〈専門教育科目〉 88単位(必修47単位、選択41単位)

(学類共通専門基礎科目・数理リテラシー) 8単位

- ・必修4単位
- ・「生物学」「物理学」「化学」から2科目4単位選択

(学類共通専門基礎科目・農学リテラシー) 28単位

- ・必修14単位

「基礎微生物学」「栽培学汎論」「食品安全学」「森林科学」「土壌科学」「農業工学」「畜産学概論」「農業経営学」「森林特別実習」1単位「畜産学特別実習」1単位から7科目以上14単位選択

(学類共通演習科目) 12単位(必修)

(コース専門科目) 28単位

- ・必修8単位(「農業経営学演習Ⅰ」4単位「農業経営学演習Ⅱ」4単位)

・「農業経済学」「フードシステム論」「農産物流通論」「農業政策学」「協同組合学」「社会計画論」「農林資源経済論」「食品マーケティング論」「スマート農業論(生産環境学コース専門科目)」「農村計画学(生産環境学コース専門科目)」「環境経済学」「アグリビジネス論」「稲作学(農業生産学コース専門科目)」「農業簿記論」から10科目以上20単位選択

(学類共通専門基礎科目・専門科目) 上記の単位数に加え、学類共通専門基礎科目・専門科目(全コース)から3単位選択

(卒業研究科目) 9単位(必修)

〈自由選択科目〉 2単位

上記の基盤教育科目、専門教育科目の単位数に加え、基盤教育科目、専門教育科目、他学類専門科目からさらに2単位選択

【履修科目の登録の上限】24単位(セメスター) ※但し、前後期開講科目については後期履修登録扱いとすることができる。また、教職科目、集中講義はこの上限数から除かれる。

授 業 科 目 の 概 要				
(食農科学研究科食農科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
科 大 目 院 基 盤	イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを旨とする。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていくことを目的としている。		
専 攻 基 盤 科 目	データサイエンスと研究倫理	本講義の第1部（研究倫理）では、研究倫理の基礎知識や基礎概念について概観した上で、公正な学術研究と責任ある学術研究活動がどのようなものであるかを学修する。またデータサイエンスのための研究倫理についても学修する。本講義の第2部（食農科学研究のためのデータサイエンス）ではデータを分析を行うためにデータサイエンスの基礎（データの集計、データの処理、分析、可視化）をR言語を用いて学修する。また、講義内で各研究分野におけるデータサイエンスの最新事情とデータサイエンスの活用事例について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (17 尾形慎/1回) 第1回：公正な学術研究と責任ある学術研究活動 (29 藤野正也/3回) 第2回：データサイエンスのための研究倫理 第10回：R言語によるアンケートデータの収集・解析 第11回：R言語によるテキストデータの解析 (28 望月翔太/2回) 第3回：データサイエンスとは何か？ 第9回：R言語による一般化線形モデル・階層ベイズ (36 高山大輔/2回) 第4回：R言語による統計学の基礎 第12回：R言語による観察データを用いた因果推論 (21 高橋秀和/3回) 第5回：R言語によるデータの可視化 第6回：R言語による分散分析 第7回：R言語によるクラスター分析 (5 渡部潤/1回) 第8回：R言語による主成分分析 (14 河野恵伸/1回) 第13回：定性データを用いた研究方法 (33 窪田陽介/1回) 第14回：Darknet/YOLOを用いた物体検出AIによる画像抽出 (32 牧雅康/1回) 第15回：Pythonを用いた深層学習による画像分類	オムニバス方式	
専 門 科 目	共通 専 門 科 目	食農科学ワークショップⅠ	研究科必修で、同学年学生全員が参加するワークショップである。学生は他コース学生と混合の小グループに分かれ、修士課程の詳細な実験計画を作成し、分野の異なる学生にも理解出来るよう説明する。聞き手の学生は科学的視点から実験計画の妥当性を評価するとともに、実行可能性について共に考える。ワークショップのまとめとして全員で発表会を行う。研究計画の精度を上げるとともに、多様な研究計画に対して科学的な批判力を養成することを目的とする。	共同・集中
		食農科学ワークショップⅡ	研究科必修で、同学年学生が全員参加するワークショップである。学生は他コース学生と混合の小グループに分かれ、修士論文の進捗状況を報告する。ワークショップのまとめとして全員で発表会を行う。修士論文の各学的な達成度を確認するとともに、多様な聴衆に対して成果をわかりやすくとりまとめる能力を養成することを目的とする。	共同・集中
		先端食品科学	食品科学分野における基礎技術、理論、応用開発事例などの現状と最新の動向および今後の展望について、各担当教員がそれぞれ専門とする以下の分野について講述する。 (オムニバス方式/全8回) (16 石川大太郎、④ 吉永和明、2 平修、⑤ 渡部潤 /1回) (共同) 第1回 食品の非破壊分析、脂溶性成分分析、食品網羅的分析および微生物ゲノムの基礎 (4 藤井力、① 西村順子、3 熊谷武久、1 松田幹 /1回) (共同) 第2回 微生物機能利用（真核微生物）、微生物機能利用（原核微生物）、乳酸菌機能論およびプレバイオ食品免疫論の基礎 (19 升本早枝子、17 尾形慎、16 石川大太郎 /1回) (共同) 第3回 ファイトケミカル機能論および糖質素材・酵素合成論の基礎、食品の非破壊分析の事例と動向 (④ 吉永和明、2 平修 /1回) (共同) 第4回 脂溶性成分分析および食品網羅的分析の事例と動向 (⑤ 渡部潤、4 藤井力 /1回) (共同) 第5回 微生物ゲノムおよび微生物機能利用（真核微生物）の事例と動向 (① 西村順子、3 熊谷武久 /1回) (共同) 第6回 微生物機能利用（原核微生物）および乳酸菌機能論の事例と動向 (1 松田幹、19 升本早枝子 /1回) (共同) 第7回 プレバイオ食品免疫論およびファイトケミカル機能論の事例と動向 (17 尾形慎 /1回) 第8回 糖質素材・酵素合成論の事例と動向、まとめ	オムニバス方式・ 共同（一部）
		先端農業生産科学	農業生産科学コースの各専門分野のテーマについて、社会的な背景、基礎技術、理論、応用事例などの現状、最新の研究動向および今後の展望について解説する。 (オムニバス方式/全8回) (6 新田洋司 /1回) 第1回 作物学 (21 高橋秀和 /1回) 第2回 遺伝育種科学 (22 渡邊芳倫 /1回) 第3回 育土栽培学 (23 深山陽子、24 高田大輔 /1回) (共同) 第4回 園芸学特論 (7 篠田徹郎、25 岡野夕香里 /1回) (共同) 第5回 植物保護学特論 (8 大瀬健嗣 /1回) 第6回 土壌環境科学 (26 二瓶直登 /1回) 第7回 植物栄養学特論 (9 石川尚人 /1回) 第8回 畜産学	オムニバス方式・ 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 共通専門科目	先端生産環境科学	<p>国土管理の基盤である森林科学と農業工学を領域とする生産環境科学コースにおいて、持続可能性の観点から、環境調和型の農林業生産と、生態学的な機能の高度化を目指すことは重要な課題である。また、農村地域の特徴、あるいは課題解決・対策に必要とされるアプローチは多様である。本講義では、生産環境科学コースを構成する多方面の専門領域から、農村地域の課題を解く手がかりとなり得る先進的な話題について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(28 望月翔太 /1回) 第1回：生産環境科学の先端的な取組とは (33 窪田陽介、32 牧雅康 /1回) (共同) 第2回：農業技術における国内外の先端研究 (31 申文浩 /1回) 第3回：行政が展開している先端的な取組：農業農村整備 (27 福島慶太郎 /1回) 第4回：森林管理における国内外の先端研究 (29 藤野正也 /1回) 第5回：行政が展開している先端的な取組：森林管理 (② 神宮宇寛 /1回) 第6回：農村の生態系管理における国内外の先端研究 (12 原田茂樹、10 金子信博 /1回) (共同) 第7回：行政が展開している先端的な取組：気候変動と生物多様性保全 (30 石井秀樹、28 望月翔太 /1回) (共同) 第8回：行政が展開している先端的な取組：防災・減災</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	先端農業経営科学	<p>本講義では、農業、食料、地域をめぐるイノベーションの動向を先端的な社会科学理論と分析視角から学修していく。持続的なフードシステムに向けた課題、世界の動向、産地の新展開に対して、それらを支えるイノベーションをキー概念として最新の知見を習得することをめざす。前半部分では、食料政策、農産物流通、マーケティングをめぐるイノベーションを取り上げ、後半部分では、福島県の原子力被災地域に焦点を当て、地域産業復興の最前線を支えるイノベーションを取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(35 則藤孝志 /2回) 第1回 食料の安定供給をめぐる社会動向とイノベーション 第8回 まとめ (⑥ 原田英美 /1回) 第2回 農産物流通の新展開と農業経営戦略 (14 河野恵伸 /1回) 第3回 マーケティング・リサーチの最前線 (36 高山太輔 /1回) 第4回 GI (地理的表示) の評価分析 (③ 小山良太 /1回) 第5回 風評問題とこれからの産地づくり (13 荒井聡 /1回) 第6回 地域農業システムのイノベーション (⑦ 林董平 /1回) 第7回 地域資源活用の新展開</p>	オムニバス方式
	復興知と農業・食料のイノベーション	<p>「食」と「農」におけるイノベーションの特質と課題を示しつつ、受講者各自の専門的スキルも基づいて、復興と持続可能な社会の構築に求められるイノベーションを考究する。また東日本大震災・原子力災害で被災した地域の復旧・復興を超えて、福島の地から明らかとなった「復興知」、ひいては日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 新田洋司、30 石井秀樹 /2回) (共同) 第1回(講義)：人類社会とイノベーション 第15回(演習)：復興知の確立とイノベーションの社会的実装 (14 河野恵伸 /1回) 第2回(講義)：農業技術と食料・農林水産業 (6 新田洋司 /2回) 第3回(講義)：食料生産と農林水産業 第9回(講義)：福島イノベーションコースト構想と復興知 (30 石井秀樹 /1回) 第4回(講義)：東日本大震災と原子力災害の被害の特質 (③ 小山良太 /1回) 第5回(講義)：農産物の風評問題の社会的構造と協同組合連携 (12 原田茂樹 /1回) 第6回(講義)：放射線の計測と対策技術 (26 二瓶直登 /1回) 第7回(講義)：農作物への放射性物質の移行メカニズムと吸収抑制対策 (3 熊谷武久 /1回) 第8回(講義)：お米のブランド化と販売面 及び 機能性表示食品制度 (農産物、加工食品) (12 原田茂樹、30 石井秀樹 /1回) 第10回(演習)：環境共生とイノベーション (3 熊谷武久、14 河野恵伸、30 石井秀樹 /1回) (共同) 第11回(演習)：福島と食品産業のデザイン (③ 小山良太、30 石井秀樹 /1回) (共同) 第12回(演習)：福島と新しい地域社会・市民社会のデザイン (6 新田洋司、26 二瓶直登、30 石井秀樹 /1回) (共同) 第13回(演習)：福島と新しい農業のデザイン (6 新田洋司、30 石井秀樹、14 河野恵伸 /1回) (共同) 第14回(演習)：イノベーション思考とデザイン思考</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 共通専門科目	アグロエコロジー	<p>「アグロエコロジー」の定義と最新の議論について総括し、世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。あわせて農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみを、認証制度を活用して構築する方法について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 金子信博 /3回) 第1回 近代農法の問題点とアグロエコロジーの必要性 第9回 小規模・家族農業と保全農法 第11回 保全農法による農生態系の多様化 (13 荒井聡 /1回) 第2回 環境保全型農業の展開条件 (23 深山陽子 /1回) 第3回 気候変動と一次生産への影響 (8 大瀬健嗣 /1回) 第4回 土壌劣化とその影響 (21 高橋秀和 /1回) 第5回 作物の遺伝資源の多様性 (2 神宮字寛 /1回) 第6回 生物多様性と農業・農村整備 (7 篠田徹郎 /1回) 第7回 生物多様性を活用した害虫管理 (26 二瓶直登 /1回) 第8回 栽培様式の違いによる土壌微生物の多様性 (22 渡邊芳倫 /2回) 第10回 保全農法における土壌管理 第12回 保全的水田農業の技術開発 (10 金子信博、22 渡邊芳倫/1回) 共同 第13回 アグロエコロジーにおける栽培技術【演習】 (10 金子信博、2 神宮字寛/1回) 共同 第14回 アグロエコロジーによる環境保全【演習】 (10 金子信博、13 荒井聡/1回) 共同 第15回 農業を基盤とする社会システムの転換【演習】</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	食農地域実践研究	<p>主として福島県の食農関連で連携する研究機関において、自分の研究に関連する地域の食と農の地域を題材として実践的に学修・研究を行う。各研究機関で実施している研究テーマを参考とし、指導教員と相談のうえ、インターンシップを含む研究体験を実施する。</p>	共同・集中
食品科学コース科目	食品素材機能学特論	<p>農産物や食品微生物などの食品素材に含まれる多様な成分が発揮する「栄養素の範囲を超える生体調節機能」について、基礎から最新の知見、社会実装例までを学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(17 尾形慎 /3回) 第1回: ガイダンス、糖質素材の利用 第2回: 糖質素材を活用した有用分子の設計と合成 第3回: 糖質素材を活用した有用分子の機能および社会実装 (19 升本早枝子 /4回) 第4回: ファイトケミカルの基礎: 種類・化学的構造について 第5回: ファイトケミカルの健康機能性 第6回: ファイトケミカルと腸内細菌 第7回: ファイトケミカルの健康機能性を応用した社会実装例 (3 熊谷武久 /4回) 第8回: 乳酸菌の基礎: 定義、生息場所などについて 第9回: 整腸作用や皮膚の健康に影響する乳酸菌株 第10回: 抗アレルギー作用を示す乳酸菌株 第11回: 免疫賦活作用を示す乳酸菌株 (1 松田幹 /4回) 第12回: 消化管粘膜上皮組織と粘膜免疫の基礎 第13回: プレバイオティクスと腸内細菌および腸管上皮細胞 第14回: 腸内細菌代謝産物および菌体成分と粘膜免疫 第15回: プレバイオティクス・腸内細菌叢とアレルギーおよび自己免疫疾患</p>	オムニバス方式
	食品分析学特論	<p>食品(農畜水産物)の分析において、分析機器の使用は必須となっている。現代の分析機器は非常に高度化されており専門的な知識が必要となる。講義では代表的な最新分析機器を事例に学修する。また、学術論文を用いて食品科学における分析の重要性を考察してもらおう。本講義で取り上げる食品分析という意味は単に食品成分の定量・定性を意味するものではなく、食品機能評価、現代科学における重要なニーズを理解するためのツールであることを意味する幅広いものである。特論であることから受講生は主体的に取り組んで考えてもらおう。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 石川大太郎 /5回) 第1回: ガイダンス、食品分析における誤差論 第2回: 食品分析のための量子力学と一般原理 第3回: 分子分光法と吸光・発光・蛍光測定の実際 第4回: 多成分素材のスペクトルの読み方 第5回: 計量化学的手法による食品の定性・定量 (4 吉永和明 /5回) 第6回: ガスクロマトグラフィ(GC)の特徴と原理 第7回: 農畜水産物のGC分析①～前処理～ 第8回: 農畜水産物のGC分析②～定性分析～ 第9回: 農畜水産物のGC分析③～定量分析～ 第10回: 農畜水産物のGC分析④～データ解析～ (2 平修 /5回) 第11回: 気相イオンの化学 第12回: 装置論 第13回: 有機イオンのフラグメンテーションと読み方 第14回: 多成分混合系(食品)の俯瞰的な解析 第15回: イメージング質量分析の食品機能学に果たす役割</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	食品科学コース科目 微生物機能開発学	本講義では、食品における微生物機能を理解し活用していくために必要な、発酵・醸造や安全衛生における微生物の重要性や機能の活用方法、活用例について、基礎から最新の知見までを学修する。具体的には、①微生物に適合可能な遺伝子機能解析法、②醸造における真核微生物の機能活用方法や利用例、③発酵乳や安全衛生における原核微生物の機能活用方法や利用例について、学修する。 (オムニバス方式／全15回) (⑤ 渡部潤 / 5回) 第1回：微生物遺伝学の基礎 第2回：減数分裂と四分体解析 第3回：形質転換と遺伝子ノックアウト 第4回：次世代シーケンサーを活用した変異点の同定方法 第5回：様々な解析手法 (4 藤井力 / 5回) 第6回：醸造用微生物と醸造物の香味 第7回：変異株の活用による香味の改良事例 第8回：醸造用微生物のつくる成分と機能性 第9回：変異株の活用による機能性成分含量の改良事例 第10回：製造法が醸造物の香味や機能性に与える影響 (① 西村順子 / 4回) 第11回：乳業用微生物の構造 第12回：乳業用微生物の生理 第13回：乳酸菌およびビフィズス菌が生産する有用物質 第14回：乳酸菌およびビフィズス菌の生体内での作用機序と機能 (⑤ 渡部潤、① 西村順子 / 1回) (共同) 第15回：近未来に向けた活用～次世代の農林水産物発酵～	オムニバス方式・共同 (一部)
農業生産科学コース科目	作物学	作物の生育を確保し高品質・高収量の収穫物を得るには、作物の器官、組織、細胞の形態と機能や、作物体の生態と生理、栽培制御方法等の理解と適切な栽培管理が必要である。この授業ではその基礎として、作物の器官と構造を理解し、生産物としての貯蔵物質の蓄積構造や品質等について学修する。また、作物の生育や収穫物の品質および収量に影響をおよぼす種々の環境による影響（高温、低温、二酸化炭素濃度、土壌等）についても概説し、とくに近年指摘されている地球温暖化による影響について理解を深める。	
	遺伝育種科学	これからの育種で求められる技術とはどのようなものなのか？これまでの品種改良の技術的な歴史を振り返り、品種改良への展開をふまえた視点で、植物科学の最新知見や解析技術について講義を通じて学修する。また、植物の機能に関して分子レベルで精査し、その内容についての発表と討論を行うとともに、ゲータサイエンスを基盤とするゲノム解析について演習を通じて体験する。最終的に、将来を担う植物をデザインし、それを育種する具体的な仮想育種計画を立案する。	
	育土栽培学	持続可能な農業が必要とされている現在において、環境保全型農業を理解する事は必須である。本授業では、作物の栽培と土壌の関係に焦点をあて、栽培管理のより土壌へ与える影響、土壌の違いによって栽培へ与える影響の相互関係を理解することで、持続可能な農業生産のための土づくり(育土)を考察できることを目的とする。また、不耕起栽培やカバークロープ、有機質肥料の施用などの環境保全型農業技術が土壌へどのような影響を与えて、どのように土づくりをするのか議論する。	
	野菜・花卉園芸学特論	野菜・花卉生産現場で起こっている様々な事象を、最新の科学的知見を取り入れながら講義を通じて学修する。また新たな知見を現場実装していくために、基礎研究から応用研究、実用研究、実証研究への発展方法や、各過程での実験手法の討論を行う。最終的には現場で生じている事象を科学的に解明手法、さらなる発展に向けての研究計画立案方法について学修する。その際、野菜花卉の輸出入が増加している現状をふまえ、各国の生産上の現状と課題についても理解し、我が国の野菜花卉園芸に今後必要とされる技術を開発するための研究手法についても学修する。	
	果樹園芸学特論	果実生産について、歴史的に重要な影響を与えた事項(明治以降の樹種構成の刷新、原子力災害等)から最新の研究成果までを解説する。果樹の効率的かつ持続的な生産に関して、生理的特徴や栽培技術などに関する研究や技術開発の動向について学修する。各回ごとに、1つの樹種や項目に関して、栽培と生産に関する技術、樹体や果実の生理現象について紹介した文献等を提示する。提示した知見の内容を理解した上で、今後の果樹生産や技術開発に関して討論をセミナー形式で議論する。新たな知見を自身で解説することで、樹種事ごとの現状を把握し、生産から流通における現場での課題や新技術の開発状況に関する理解促進をねらう。	
	応用昆虫学特論	環境調和型の農業害虫管理に求められている、革新的な害虫制御技術や有用昆虫の利用技術について学修する。特に、殺虫剤抵抗性や脱皮・変態などの昆虫特異的な生理機能に焦点を当て、昆虫ゲノム・遺伝子解析技術を用いたそれらの分子機構の解析法について学修する。さらに、遺伝子を基盤とした害虫制御剤や有用昆虫開発の現状について理解を深める。授業は、担当教員による講義に加えて、受講者による最新の論文の紹介と輪読等を含めて展開する。	
	植物病理学特論	植物の病害は、農作物の収量減少や品質の低下を引き起こし、世界の農業生産に甚大な被害を与えている。植物の病害は、菌類、細菌、ウイルスなどの植物病原微生物と植物の相互作用の結果生じている現象である。植物の病害に対して適切な防除策を講じたり、新たな防除法を確立したりするには、この相互作用を詳細に明らかにすることが重要である。本授業では、病害発生メカニズムや植物-微生物相互作用に関して、近年注目されている知見や技術を紹介する。それに基づき、将来の研究課題について議論を行い、植物病理学分野への理解を深める。授業は担当教員による講義に加えて、受講者による調査とその発表等を含めて展開する。	
	土壌環境科学	地球生態系において土壌は重要な機能を担っており、地球環境諸問題とも強く関係している。本授業では、初めに土壌の生態系機能とメカニズムについて概説したのち、人口増加と食糧問題、地球温暖化、森林破壊、酸性雨、化学物質汚染、および放射能汚染について、土壌の応答や土壌中での動態について個別に論ずる。	
	植物栄養学特論	植物が生長するために必要な栄養のしくみを分子、器官、個体、生態系のレベルで統合的に学ぶ。また、食料生産における施肥の重要性を認識し、農業が生態系や環境に与える影響についての理解を深める。授業は担当教員による講義に加え、先端的研究に関する論文の紹介と輪読等を行い、大学院生による調査発表も取り入れて展開する。	
畜産学	畜産業は動物性タンパク質を供給し、種々の高い付加価値を提供する重要な産業である。これを扱う畜産学は、家畜育種学、家畜繁殖学、家畜栄養学、家畜飼料学、家畜管理学、家畜衛生学、乳利用学、肉利用学などの広い専門分野から構成されている。本授業ではこれらの専門分野の基礎および応用的な知識、また、グローバルな視点に基づき、最新の高度な動物生産の知見について情報を整理し学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 生産環境科学 コース科目	先端森林管理学	<p>森林は水源涵養機能や山地災害防止機能など、様々な生態系サービスを人間に提供している。さらに、国土の約70%を占め、農業生産にとどまらず、生活や経済活動を支える基盤である。しかし、ほぼすべての森林は人間による伐採の後に森林となったため、人為的な管理が行われなければ、多くの森林が劣化し、生態系サービスの提供に深刻な影響が出る。</p> <p>本講義では、少子高齢化や地球温暖化など、現代社会の様々な問題を踏まえ、①森林管理の社会制度（法体系、森林管理計画）、②経済活動による森林管理方法、③非経済活動による森林管理方法を学ぶとともに、④森林管理の有無が生活や経済活動に及ぼす影響を学ぶ。さらに、⑤東京電力福島第一原子力発電所事故により放射性物質が降り注いだ福島県内の森林の現状を学び、福島県の森林・林業の再生について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(29 藤野正也 / 8回)</p> <p>第1回：ガイダンス、先端森林管理学の体系 第2回：森林管理の社会制度：法体系 第3回：森林管理の社会制度：森林管理計画 第4回：経済活動による森林管理方法：目標林型と育林技術 第5回：経済活動による森林管理方法：木材生産技術 第6回：経済活動による森林管理方法：木材流通 第7回：経済活動による森林管理方法：経済インセンティブ 第15回：森林管理のまとめ</p> <p>(10 金子信博 / 2回)</p> <p>第8回：非経済活動による森林管理方法：自然公園 第9回：非経済活動による森林管理方法：農村生活 (27 福島慶太郎 / 3回)</p> <p>第10回：森林管理の有無が社会に与える影響：物質循環 第11回：森林管理の有無が社会に与える影響：災害 第12回：森林管理の有無が社会に与える影響：その他の生態系サービス (30 石井秀樹 / 2回)</p> <p>第13回：福島県の森林・林業：原発事故の影響 第14回：福島県の森林・林業：森林・林業の再生</p>	オムニバス方式 メディア
	先端農地管理学	<p>生産環境場では、大規模化や担い手不足などを理由に、効率的な管理が求められている。そのためには、ICTや高度な数値計算等の工学的手法を理解する必要がある。</p> <p>本講義では、特に、①生産環境の維持・整備を行うための流出現象についての基礎理論とその制御技術、②生産規模拡大や農作業の効率化に向けたスマート農機の作業手法や評価方法、③遠隔および近接撮影画像による非破壊検査法、④これらによって得られたデータの効率的な管理のための地理情報システムについて、森林・農地・水系のつながりを意識して理解を深め、専門的な知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 原田茂樹 / 5回)</p> <p>第1回：流出現象の概要：森林里海での流出現象とその重要性 第2回：森林からのセシウム流出制御技術 第3回：市街地や農村生活圏域からの重金属流出制御技術 第4回：タンクモデルや融雪タンクモデルを用いた流出計算（モデル起動） 第5回：都市型水文モデルを用いた市街地や農村生活圏域での流出計算（モデル起動） (33 窪田陽介 / 5回)</p> <p>第6回：農業機械の評価方法—作業効率と作業精度— 第7回：トラクタ協調作業時におけるオペレータ視線解析 第8回：産業用ヘリコプタおよび農業用ドローンによる農薬散布特性 第9回：散布液滴の粒子解析① 第10回：散布液滴の粒子解析② (32 牧雅康 / 5回)</p> <p>第11回：UAVを用いた農地情報の収集 第12回：リモートセンシング画像の解析（分類） 第13回：リモートセンシング画像の解析（抽出） 第14回：農地管理におけるGNSSの活用 第15回：地理情報システムを用いた農地情報の管理</p>	オムニバス方式
	農林環境生態学	<p>農林環境は、大気、水、土壌及び生物などの間を物質が循環し、生態系が精妙な均衡を保つことによって成り立っており、生態系の機能や生物群集の多様性、種間関係などは、人間社会の発展とともに変化してきた。</p> <p>本講義では、①森林生態系の成り立ち、②水田生態系の特徴、③農業農村整備の特徴、④管理計画を考える際の住民、行政、企業らの合意形成のあり方を学び、中山間地域の野生動物由来の諸問題、水域を含む地域環境問題について論じる。また、問題の解決に必要な行政的、社会的知識も併せて、環境との調和を旨とした森林・農村環境の管理方法について理解を深め、農林環境生態学の専門的な知識を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 神宮宇寛 / 4回)</p> <p>第1回：農村生態工学①：農林水産業に関連する国内外の環境保全の法制度と条約 第2回：農村生態工学②：水田水域の生物多様性保全と内水面漁業の資源管理 第3回：農村生態工学③：水田水域の環境修復技術 第4回：農村生態工学④：水田水域の化学物質の管理とリスク評価 (10 金子信博 / 3回)</p> <p>第5回：生態系管理①：化学量論に基づく生態系モデル 第6回：生態系管理②：生物群集理論に基づく生態系モデル 第7回：自然資本利用：生態系サービス・フットプリントの評価 (28 望月翔太 / 4回)</p> <p>第8回：野生動物管理①：生態学と社会学からのアプローチ 第9回：野生動物管理②：個体群動態モデリング 第10回：自然環境保全①：環境アセスメント手法について 第11回：自然環境保全②：景観生態学からのアプローチ (31 申文浩 / 4回)</p> <p>第12回：地域資源と環境①：地球の水循環、水資源に関する環境問題 第13回：地域資源と環境②：水資源利用の現状と課題 第14回：農村開発と環境①：流域、河川水利の開発と調整 第15回：農村開発と環境②：持続可能な農業農村整備と課題</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 農業経営科学 コース科目	地域農業マネジメント論	<p>本講義では、多様な農業経営で構成される地域農業の課題を抽出し、それを解決するためのステークホルダーのマネジメント機能に関する分析視角と手法について学修する。多様な農業経営の展開論理、及び支援組織、関連機関の機能と役割について分析的、かつ体系的に学修する。第1～6回 農業経営学の分析枠組みを用いて、経済成長と持続可能で多様な農業経営体の発展論理を学修し、また地域農業振興に寄与する行政等の関連組織が有するマネジメント機能に関する分析手法を習得する。第7～12回 協同組合学の分析枠組みを用いて、地域農業の支援組織である協同組合やNPOが地域農業振興に果たす役割を実践的に学修し、それら組織が有するマネジメント機能の分析枠組みと手法を習得する。第13～15回 関連論文を輪読し、研究方法と論文執筆技法への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 荒井聡 /6回)</p> <p>第1回 農地制度と農業経営 第2回 家族経営と企業経営 第3回 新規就農の動向分析 第4回 集落営農の動向分析 第5回 地域農業支援システム 第6回 被災地における営農再開 (3 小山良太 /6回)</p> <p>第7回 産地形成と生産部会 第8回 多様な担い手と営農指導体制 第9回 組合員の多様化とJA経営 第10回 地域農業振興と市民参加 第11回 風評払拭と協同組合の役割 第12回 営農再開と協同組合の役割 (13 荒井聡、3 小山良太/3回) (共同)</p> <p>第13回 発表論文の選定 第14回 輪読・発表 ー地域農業の新動向ー 第15回 輪読・発表 ー協同組合の最前線ー</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	フードビジネス分析論	<p>本講義では、フードシステムにおける生産、流通、消費を通じた各ビジネスや、そこから派生する社会問題を分析するための考え方や方法の習得をめざす。第1～4回は原田が担当し、農業経営学、食料経済学の視点で、食に関わる生産、流通動向とその課題を分析する方法を学修する。第5～8回は則藤が担当し、フードシステム論の視点で、農業生産から食料消費に至る産業間の連鎖構造と主体間関係、および地域におけるフードシステム形成を分析する手法を学修する。第9～12回は河野が担当し、消費者行動論に立脚したマーケティング・リサーチ手法を学修する。第13～15回は具体的な事例を分析し、発表を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 原田英美 /4回)</p> <p>第1回：ガイダンスと農水産物流通論 第2回：生産動向 第3回：流通動向 第4回：小売・消費動向 (35 則藤孝志 /4回)</p> <p>第5回：現代日本のフードシステム 第6回：産業構造の企業行動 第7回：垂直的調整システムと主体間関係 第8回：地域圏フードシステム (14 河野恵伸 /4回)</p> <p>第9回：消費者行動論 第10回：クロス集計と分散分析、多重比較 第11回：セグメンテーションとプロダクト・マップ 第12回：嗜好分析 (14 河野恵伸、6 原田英美、35 則藤孝志 /3回) (共同)</p> <p>第13回：事例分析 第14回：とりまとめ 第15回：発表</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	農業経済・政策分析論	<p>本講義では、農業経済や農業政策にかかわる問題を分析するための分析視角や分析手法の習得を目指す。第1～6回は林が担当し、農業経済・農業政策分析をする上で必要なミクロ経済学にもとづく農業経済学の基礎について、消費者行動と農業・漁業経営者の行動ならびに食料経済学、農村・漁村における農地や漁場をめぐる集合行為などに焦点をあて、その理解を深めることを目的とする。第7～12回は高山が担当し、農業経済・農業政策分析に関する実証研究を行う上で必要とされる基礎的な知識や統計学的な分析手法を習得することを目的とする。第13～15回は上記両名で担当し、農業経済・農業政策分析の実証研究に関する論文を輪読し、実証研究を行う上で必要な考え方や論文執筆の技法への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 林薫平 /6回)</p> <p>第1回：消費者の嗜好と選択、消費者協同組合 第2回：農家・漁師の行動と農業・漁業経営、農業協同組合・漁業協同組合 第3回：農業技術の選択、環境保全型農業 第4回：食料の経済学、食の安全、農産物・水産物の産消提携 第5回：農地の経済学、土地改良、水田フル活用 第6回：資源の経済学、里山・里海とコモンズ、多面的機能 (36 高山太輔 /6回)</p> <p>第7回：データの整理と確率変数の基礎 第8回：統計理論の基礎 第9回：線形重回帰モデルの推定と検定 第10回：重回帰モデルの推定と検定 第11回：マイクロデータの分析手法：パネルデータ分析 第12回：マイクロデータの分析手法：政策評価モデル (36 高山太輔、7 林薫平/3回) (共同)</p> <p>第13回：発表論文の選定 第14回：輪読・発表 ーミクロ経済分析の動向ー 第15回：輪読・発表 ー政策評価の研究動向ー</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 特別演習	食農科学特別セミナー	<p>指導教員による研究指導のうち、各分野で共通して求められる能力を身につけることを目的とした内容を、標準的なセミナープログラムとして構成した演習科目である。口頭発表及びポスター発表による効果的なプレゼンテーション法を学習する。続いて、文書によるプレゼンテーション法、すなわち修士論文及び学術論文の執筆法について学修する。最後に、受講生自身の研究成果をプレゼンテーション実践することを通じて、本演習で学修した内容を駆使できるようにする。</p> <p>(1 松田幹) 食品・食品微生物と腸管・免疫系との相互作用と、その機構に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(2 平修) 質量分析学を応用した画像解析に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(3 熊谷武久) 食品素材としての乳酸菌の健康機能に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(4 藤井力) 醸造や関連微生物に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(① 西村順子) 発酵乳や安全衛生における原核微生物の機能活用に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(6 新田洋司) 作物学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(7 藤田徹郎) 応用昆虫学特論に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(8 大瀬健爾) 土壌環境科学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(9 石川尚人) 畜産学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(10 金子信博) 生物群集の多様性と機能に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(② 神宮字寛) 農村生能工学や生物多様性に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(12 原田茂樹) 水士圏の環境動態について、調査・制御実験や分析手法に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(13 荒井聡) 地域農業や集落営農に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(14 河野恵伸) 食品マーケティングに関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(⑤ 小山良夫) 極点組合と産地形成に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(16 石川大太郎) 吸光・蛍光・発光測定と分子計算を利用した分析学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(17 尾形真) 糖質素材を活用した有用分子の設計・合成・機能に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(④ 吉永和明) 脂溶性成分のガスクロマトグラフィを基盤とした分析学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(19 升本早枝子) 植物由来機能性成分の腸管・体内での生理作用と、その機序に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(⑤ 渡部潤) 微生物に適合可能な遺伝子機能解析法に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(21 高橋秀和) 遺伝育種学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(22 渡邊芳倫) 育土栽培学に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(23 深山陽子) 野菜・花卉園芸学特論に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(24 高田大輔) 果樹園芸学特論に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(25 岡野夕香里) 植物病理学特論に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(26 二瓶直登) 植物栄養学特論に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(27 福島慶太郎) 窒素流出や物質循環に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(28 望月翔太) 野生動物管理や自然再生に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(29 藤野正也) 森林管理や林業経済に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(30 石井秀樹) 里山管理や環境計画に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(31 申文浩) 水資源の利用や水管理システムに関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(32 牧雅康) 陸域リモートセンシングや画像処理に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(33 窪田陽介) スマート農業や生産機械に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(⑥ 原田英美) 農産物流通や契約農業に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(35 則藤孝志) フードシステムに関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(36 高山太輔) 農業経済や政策評価などに関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p> <p>(⑦ 林薫平) 農林資源経済や地域資源活用に関する観点から、学生や教員との討論を通じて、課題の発見や解決手法の修得、プレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 特別研究	食農科学特別研究	<p>多様な食農科学分野における各学問領域に関して、研究の実践、指導を行い、さらに関連分野と関連付けた論文作成指導を行う。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標を設定する。研究の遂行にあたって必要な実験技法、野外調査技法、社会・経済調査技法、データ解析、プレゼンテーションに必要なアプリケーション等を明確にし、効果的に修得する。</p> <p>(1) 松田幹) 食品・食品微生物と腸管・免疫系との相互作用と、その機構に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (2) 平修) 質量分析学を応用した画像解析に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (3) 熊谷武久) 食品素材としての乳酸菌の健康機能に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (4) 藤井力) 醸造や関連微生物に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (10) 西村順子) 発酵乳や安全衛生における原核微生物の機能活用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (6) 新田洋司) 作物学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (7) 篠田徹郎) 応用昆虫学特論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (8) 大瀬健嗣) 土壌環境科学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (9) 石川尚人) 畜産学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (10) 金子信博) 生物群集の多様性と機能に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (11) 神宮宇亮) 農村生態工学や生物多様性に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (12) 原田茂樹) 水土環境の環境動態に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (13) 荒井聡) 地域農業や集落営農に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (14) 河野恵伸) 食品マーケティングに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (15) 小山良太) 協同組合と産地形成に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (16) 石川大太郎) 吸光・蛍光・発光測定と分子計算を利用した分析学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (17) 尾形眞) 糖質素材を活用した有用分子の設計・合成・機能に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (18) 吉永和明) 脂溶性成分のガスクロマトグラフィを基盤とした分析学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(19) 升本早枝子) 植物由来機能性成分の腸管・体内での生理作用と、その機序に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (20) 渡部潤) 微生物に適応可能な遺伝子機能解析法に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (21) 高橋秀倫) 遺伝育種学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (22) 渡邊芳倫) 育土栽培学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (23) 深山陽子) 野菜・花卉園芸学特論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (24) 高田大輔) 果樹園芸学特論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (25) 岡野夕香里) 植物病理学特論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (26) 二瓶直登) 植物栄養学特論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (27) 福島慶太郎) 窒素流出や物質循環に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (28) 望月翔太) 野生動物管理や自然再生に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (29) 藤野正也) 森林管理や林業経済に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (30) 石井秀樹) 里山管理や環境計画に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (31) 申文浩) 水資源の利用や水管理システムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (32) 牧雅康) 陸域リモートセンシングや画像処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (33) 窪田陽介) スマート農業や生産機械に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (34) 原田英美) 農産物流通や契約農業に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (35) 則藤孝志) フードシステムに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (36) 高山太輔) 農業経済や政策評価などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 (17) 林薫平) 農林資源経済や地域資源活用に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

国立大学法人福島大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福島大学				福島大学				
人文社会学群				人文社会学群				
人間発達文化学類	260	10	1,060	人間発達文化学類	260	10	1,060	
行政政策学類				行政政策学類				
昼間	185	10	760	昼間	185	10	760	
夜間主	20	-	80	夜間主	20	-	80	
経済経営学類	220	10	900	経済経営学類	220	10	900	
理工学群				理工学群				
共生システム理工学類	160	-	640	共生システム理工学類	160	-	640	
農学群				農学群				
食農学類	100	-	400	食農学類	100	-	400	
計	945	30	3,840	計	945	30	3,840	
福島大学大学院				福島大学大学院				
人間発達文化研究科				人間発達文化研究科				
教職実践専攻(P)	16	-	32	教職実践専攻(P)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域文化創造専攻(M)	17	-	34	地域文化創造専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	7	-	14	学校臨床心理専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域政策科学研究科				地域政策科学研究科				
地域政策科学専攻(M)	20	-	40	地域政策科学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経営学専攻(M)	12	-	24	経営学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
共生システム理工学研究科				共生システム理工学研究科				
共生システム理工学専攻(M)	53	-	106	共生システム理工学専攻(M)	40	-	80	定員変更(13)
環境放射能学専攻(M)	7	-	14	環境放射能学専攻(M)	5	-	10	定員変更(2)
共生システム理工学専攻(D)	4	-	12	共生システム理工学専攻(D)	4	-	12	
環境放射能学専攻(D)	2	-	6	環境放射能学専攻(D)	2	-	6	
計	148	-	302	計	125	-	256	
				地域デザイン科学研究科				
				人間文化専攻(M)	20	-	40	
				地域政策科学専攻(M)	8	-	16	
				経済経営専攻(M)	14	-	28	
				教職実践研究科				研究科の設置(事前相談)
				教職高度化専攻(P)	12	-	24	
				食農科学研究科				研究科の設置(意見伺い)
				食農科学専攻(M)	20	-	40	